

## 「美幌町花卉生産組合」におじゃましました

オホーツク総合振興局から、「美幌町花卉生産組合」をご紹介します。  
組合長の鶴丸順二（美幌町）さんにお話を伺いました。

### ○美幌町花卉生産組合の歩み

美幌町花卉生産組合は、平成5年2月12日に美幌町内の農家10名で設立しました。設立当時は、カーネーションやトルコギキョウ、スターチスを取り扱っていたのですが、当時の農業改良普及センターの職員から、「デルフィニウムを扱ってみては」と勧められたことをきっかけとして、組合員それぞれが意気投合し、平成12年から、デルフィニウムを扱うようになりました。生産されたデルフィニウムは、出荷先の市場でも高い評価を受けており、現在では、デルフィニウムが主となり、農家9名で花卉栽培が続けられています。

デルフィニウムは、近年では、年間でおよそ35万本が生産されています。



～生産されたデルフィニウム～  
(J Aびほろ提供)

### ○美幌町花卉生産組合の取り組み

デルフィニウムの栽培は、鶴丸さんのところでは、4月に苗を買ってきてハウスに移植しています。鶴丸さんは、「移植後のハウス内の温度管理（防寒対策）を適切に行っていくことが重要」とおっしゃっていました。

また、羽ダニなどの害虫や、多雨・多湿になると発生しやすい「うどんこ病」への防除対策も、デルフィニウムにとっては重要で、美幌町花卉生産組合では、統一した基準を設けてはいないものの、農業改良普及センターからの指導と、これまで培ってきた長年の経験から、防除などのタイミングを見極めており、それが適切に実施された結果に結びついているとのこと。

美幌町花卉生産組合としての活動は、出荷した市場（姫路、梅田、大田、世田谷、札幌）へ訪問し、関係者から美幌町の花の評価を伺ったり、花卉生産を取り扱っている道内の農協等を訪れて、情報交換を行っているなど、積極的に活動されています。種苗会社が美幌町を訪れた際には、研修会や講習会を開催し、栽培技術や知識を高めています。

また、花き生産農家のメンバーが、美幌町内の各地区に点在していると聞き、「生産組合の農家のつながりはあるんですか？」と鶴丸さんに伺ったところ、「日頃から連絡を取り合っているし、互いに行き来することもよくあるんですよ。」と、間髪入れずにお答えいただき、生産組合のみなさんが一つとなり、花き生産に取り組んでいる姿勢が伺えました。

## ○今後に向けて

美幌町花卉生産組合は、昨年度で設立してから20周年を迎えました。今後について伺うと、「当面は、組合の主力となっているデルフィニウム栽培を続けていくこと、そして、デルフィニウムが『美幌の花』として、定着していくことが組合として目指すところでしょうかね。」と鶴丸さんはおっしゃっていました。

組合を構成する農家9名のうち、後継者のいる農家が半数近くいらっしゃることで、美幌町花卉生産組合が今後も継続されていくことが期待されています。

今後も美幌町花卉生産組合が相互に研鑽され、ますます発展していくことを願っています。



昨年、20周年を迎えました  
(JAびほろ提供)



鶴丸さんのお宅では、  
デルフィニウムがお出迎えしてくれました  
(振興局)

(平成25年11月取材 オホーツク総合振興局農務課)